



日本エンドオブライフケア学会

# 理事長挨拶

人間環境大学副学長 大学院看護学研究科長 教授  
島内 節

2016年10月23日(日) 10:00-10:10

会場:学士会館

# 学会の目的と理念・方針

学会の目的は「**すべての人に質の高いエンドオブライフケアを**」 実現していくこと

その目的達成のための理念・方針は

1. **人権**としてのエンドオブライフケアを**具現化**
2. **市民と多様な分野**のケア実践者・教育者・研究者の**参画と協働**

を掲げて2016年7月に本学会を設立した

# エンドオブライフにおけるケアとは

誰もが遭遇するエンドオブライフについて事前から考えながら生活し、その時が訪れたら時には、生きてきた**日常性を保持**しながら**尊厳**をもって**その人らしく生きること**、**生命・生活・人生の質(QOL)と価値を高める**。ケアのプロセスにおいて家族を支えグリーフケアまでを含めた**医療モデルと生活モデルを統合したケア**

# 学会の特徴

1. 本学会は**年齢・疾病・ケアの場を問わず**  
エンドオブライフケア(End-of-Life Care  
以下EOLケア)についていつかは訪れる死、  
差し迫った死を考え、**EOLケアのあり方を**  
**討論・模索・構築**していく場
2. **専門職**はもとより**市民の参加を重視**

# 学会の目的を効果的に達成 していくための本学会の活動(1)

## 1.学術集会

EOLケアにかかわる人々の相互研鑽  
のために会員による一般演題発表・特別講演・  
教育講演・シンポジウム・セミナーなどを開催

## 2.各種委員会による各種セミナーを含めて活動

3.EOLケアの「**実践・教育・研究の相互循環的  
発展**」と学会としての「**統合的発展**」をめざす

# 学会の目的を効果的に達成 していくために本学会の委員会活動(2)

## 3.委員会組織

- 1) 編集委員会
- 2) エンドオブライフを支える専門職の実践・教育・研究委員会
- 3) エンドオブライフに向けた意思表示プロセス実践・教育・研究委員会
- 4) 市民と専門職が協働するための実践・教育・研究委員会

上記の活動をとおして会員・非会員の皆様と協働し、アクティブに進めていきたい。

# 社会的課題と本学会の役割(1)

- 1.わが国は少子高齢化とグローバルが加速的に進展を続ける複雑な社会状況において多死社会を迎えようとしており、**本学会が担う課題は大きい。**
- 2.EOLケアは先進諸外国においても高齢化とともに**共通課題**となっており、医療福祉制度やケア提供方法を変革してきた。
- 3.EOLケアの実践・教育・研究の**エビデンスに基づき、効果的な蓄積・深化・普及**を図る。
- 4.上記の理念・方針のもとに**実践・教育・研究の相互循環的発展と学会としての統合的発展**をめざす。

# 社会的課題と本学会の役割(2)

5. エンドオブライフにおける**統合的包括的ケア**をめざした**パラダイム転換**としての**制度やケア提供方法の改革課題**にも取り組む。
6. 本学会は「すべての人に質の高いエンドオブライフケア」の実現のために「人権としてのエンドオブライフケアを具現化」し、「参画と協働」により「生活文化を重視した**ケア実践**」を教育的・学術的に進める。
7. これらをとおして**国内外の人々の健康と福祉**および**文化の発展に貢献**する。

# 会員・非会員の皆様へお願い

学会では具体的な活動計画を立てホームページに公開しますので**会員・非会員**とともに積極的な**参画と協働**を期待、  
よろしくお願ひ致します。